

きいてくらしやい 昔話

—長岡民話の会—会報第 18 号 平成 24 年 12 月発行—

皆様、お元気ですか？あつという間に寒くなり、山も里も白く雪化粧の装いとなりました。今年の流行語にもなった爆弾低気圧が猛威をふるい、いつになく荒れた年の瀬となるようですが、皆さまどうぞ体調にはくれぐれもお気を付け下さいね。さて、会報 18 号をお届け致します。今年も一年お疲れさまでした。来る 2013 年巳年が良い年となりますように…。(千)



☆活動報告と活動予定

日程	内容
4月28日(土)	第9回総会(阪之上コミュニティセンター) 出席者25名 委任状5名 欠席11名
6月17日(日)	第6回新潟県民話語り連絡協議会総会 於:見附市中央公民館大ホール 当会参加者22名 第7回は長岡大会(H25年6/8(土)6/9(日)予定)
7月8日(日)	第7回聞いてくらしやい“語りつくし越後の昔話” 伝承語り部6名による 会場:アトリウム長岡 13:30~16:00 参加人数:72名 語り手6名
6月16日(土)~7月16日(月)	新潟県立歴史博物館 マイコレクション展参加 展示と語り
9月3日(月)4日(火)5日(水)	第7回 長岡民話の会“百物語” 会場:アオーレ長岡1階 市民交流ホールA 来場者数:486名
10月28日(日)・29日(日)	伝説の地 猿ヶ京温泉民話交流の旅(猿ヶ京ホテル) 持谷靖子さんの語りと語り座てまりとの交流会 参加者:14名
平成25年1月26日(土)	会場:アトリウム長岡 例会:13:30~14:30 新年会:14:30~16:30 会費:5,000円(飲み放題で~す♪) 担当:1班 申込切:1月9日(水) 安部さんまでご連絡下さい。
6月8日(土)・9日(日)	“県民話語り連絡協議会長岡大会の成功を!!”

来年の県総会にむけて、実行委員も決まりおおよその役割も決まりました。また、内容もおおまかなところは決定しつつあります。講師の先生もお願いしました。警女唄も歌って頂く予定です。なお、二日目は山古志をご案内する予定です。長岡民話の会の総力を結集して総会を成功させましょう！そして、おいに総会を楽しみましょう♪



私の語り体験を通して

水沢謙一さんはその著書の中に、100話、200話を語る語り手を紹介している。その語り手は、題を言っただけですぐ100話、200話の話がすらすらと混乱することなしに、出てくるのであろうか。聞き手の方で何らかのヒントを与えて、徐々に記憶の糸を手繰り寄せて語るのではないだろうか。100話、200話の話の内容がすぐ口をついて出てくるとは思えない。

私も語り始めて、10年以上たつ。「昔話語りダイジェスト」というファイルを作っている。そこには135話の話が収録されている。いろいろな本や人の話の中でこれとは言うものを集めたものである。そこには必ず出典を明記する。どこの話か後で探せるようになっている。ただほんのコピーしたものを綴じただけのものではない。それだけだと活字の大きさも、版の大きさもまちまちで、綴じにくい。まず書物の活字をスキャニングして、データ化する。それを語りやすいように方言をいれ、肉付けして、自分なりに咀嚼して自分のものにしてゆく。しかし、その135話を題名だけで「この話を語ってください」と言われても、すべてすらすらと口をついて出てくるものではない。最初のうちはあらすじを記憶していても、長く語られないとあらすじも忘れてしまう。だから、今日はこれを語ろうと決めた話は、予習していかななくては語れない。最近とみに、人の語りが記憶に残らない。加齢によって記憶力が衰退してきているのであろう。努めて人の話のキーワードをメモしておく習慣をつけるように心がけている。それに加えて考え事をしていて、人の話を聞き流してしまうことも多くなった。集中力が持続しなくなったこともある。もちろんすべてがそうしなければ語れないというのではない。いわゆるおはこが20話くらいあってこれはすぐ語れる。

しかし、そのおはこだけ語っていると、他の話をどんどん忘れてしまう。だから不得意な話も努めて語るようにしている。

それに聞く相手の人数、年齢、雰囲気、会場など前もってよく聞いておく必要がある。

子供にはそれにふさわしい話を選ばなければならない。まさか艶笑譚を語るわけにはいかない。老人会、施設、酒の席などによっても語る話を選択しなければならない。指定された時間もある。90分という時間指定の場合は、すぐ語りに入るのではなく、導入段階で子供の頃の昔話体験を話す、今まで会った昔話の思い出、子どもには、知っている昔話を上げてもらうことも必要である。そうしないと語りだした後に「その話知っている」と言われると話しにくくなる。また、同じ場所、同じ聞き手に語る場合には、前に語った項目をメモしておかなければならない。「その話はこの前聞いた」と言われるとこれまた語りにくくなる。

将来的には、季節ごとにふさわしい話を選んでおくことも必要なのではともっている。俳句の季語と同じように語りもそれぞれの季節にふさわしい話があって良いだろう。私の「昔話ダイジェスト」はこれからどれだけ増えてゆくのだろう。歳も歳だ、そんなに増えはしないだろうが…。





百物語りを終えて

今井 淳子

長岡市誕生100周年の記念事業に併せて「第1回百物語」を始めて。今年で7年目。そして、アオーレ長岡誕生の年に会場をアオーレ長岡にしました。会場である市民交流ホールAは、電動可動イスがあり、フロアに用意したスタッキングチェアも、それはそれは座り心地のいいものでした。照明も明るすぎず暗すぎず、正面の壁は落ち着いた黒で、バトンに吊るされた横断幕は演者用に照らされたライトに映えて重厚感のあるものでした。ステージに工夫された小道具が揃うと、そこはもう完全なる民話の世界です。おだやかな空気の中で聞く民話は、心が豊かになる気分でした。

会場が良いとこんなにも語りが上手く聞こえるのでしょうか。イエイエ、皆の語りが上達したんだ、7年目ともなると語り手も工夫を加え味わいのある語りだったのです。長岡民話の会は、常に成長し進化をつづけているんだと感じました。

入場者においては、例年より少ないだろうと予測していたのです。ところが、アオーレ長岡効果絶大で426名もの人が来てくださいました。「やっとで会場にたどりついた。」「ウロウロしました。」などの声もあり、民話を聞くために会場をさがしてでも来て下さったのです。色々な方が、様々な想いで入場されたんだと思います。

それは、感想用紙が例年になく多く回収できた（56枚）ことに反映しています。

その感想用紙の自由記載から貴重な意見を頂きましたのでご紹介します。

- ①会場の雰囲気为民話と調和がとれていて良かった。
 - ②開演中に入場退場の出入りが気になる。
 - ③ドアが開いていると外の声や音が気になる。
 - ④スタッフ側ドアの音がうるさい。 などなど・・・。
- ②～④は主催者としての配慮が欠けていたと反省しています。今後の課題として受け止めていきたいと思えます。

しかし、実は当日の会場では会員が全力でカバーしてくれていたのです。②と③においては、入場者出入口を閉めてAさんがドアマンとなって案内誘導をしていました。④においては、気が付いたBさんが皆に伝えてCさんがドアストッパーをクッションがわりにして対応しました。

当日は全員が、終始些細な事でも、改善へと知恵を出してすぐに行動する。そんな事の連続でした。なんと全員協力！一致団結！の素晴らしい会なのでしょう♪うれしい気持ちでいっぱいになりました。

語りだけでなく、主催者としても皆が成長進化していることを実感できた3日間でした。色々な面で百物語は大成功だったと思えます。感想用紙に頂いた貴重な意見を無駄にすることなく、成長進化しながら次回の会に繋げていきたいと思えます。

皆様お疲れさまでした。そして、アオーレ長岡スタッフの皆様、民話に携わって下さった皆様、本当にありがとうございました。



民話はロマンだ！昔話はロマンだ！

倉地 祐子

私には、いつどこで聞いた話かはっきりしないが、心に残っている話がある。それは、地獄と極楽の食事の話である。地獄も極楽も同じおいしそうなご馳走が並び、どちらの人にも長い箸が一膳ずつ配られている。地獄の人たちは、その長い箸で食べようとしてもなかなか口に入れることができない。そのうちに、箸がぶつかったとか、邪魔をされたとか言って、食堂中大喧嘩になる。

一方、極楽の人たちは、その長い箸に挟んだご馳走を「どうぞ」と言って向かいの人の口に入れてあげる。みんなで「ありがとう」「おいしいね」と言って食べている。という話なのである。

「何か仏教に関係した話かもしれない。そうだとしたら勝手に語っていいものか。」そんなことが気になる私は、先日、我が家の月命日にお経を読みに来られた副住職にその話をしてみた。

寺の娘と結婚し、本山の修業を終わったばかりのその副住職は、よくわからないと言って帰ったが、3日後に調べてきてくれた。

それによると、仏教でいう地獄とは、阿鼻叫喚の世界であり、ご馳走が出るなどとは考えられないこと。イスラムの教典に「長いスプーンの話」というよく似た話があること。仏教では、ただ1つ、臨済宗の一人の老師が説話の中で、お釈迦さまが地獄と極楽をのぞいてみたということで同じ話をしているという。

私の聞いた話は、この臨済宗の老師の話かな、それなら語ってもいいなと思った。

待てよ！それでは学者先生の「この昔話のものは〇〇です。」と同じではないか！！話のルーツ探しは学者先生にまかしておけばいい！大切なことはどう語られてきたかだ！民話大好きな私の心が納得しない。あれこれ探した。図書館の民話の本も、少しばかりの自分の本も・・・

あった！会津塩川の語り部「山田登志美さん」の語る「地獄と極楽」という話である。花園大学の学長をしたという臨済宗の老師の説話を聞かれたのかな？

そうではない！登志美さんの話には、お釈迦さまが出てこないのである。ある男が旅をして地獄と極楽に行ってみたらという話である。老師の話を聞いたものならば、お釈迦さまが出てこないはずがない。

ああ！民話はロマンだ！！ 昔話はロマンだ！！

私は、民話を語る際、出典や元の話などルーツを探るよりも、どう伝わって来たかを大切にしたいと思った。そこには、その地域の文化や自然などの特性が色濃くあらわれているからである。

そんなことに気付いた私は、ますます民話が好きになった。(祐子の独り言)



発行者：長岡民話の会

連絡先：0258 (34) 5240 (安部)